



株式会社 日立製作所

ディーバ社連結会計システム
「DivaSystem」の構築・運用

分散する業務

膨大な
連結決算
処理作業

スクラッチ開発

提携や合併 **M&A**

肥大化するITコスト

国内シェア**No.1**の連結会計パッケージ

Small Start

保守・運用に
長けた
パートナー

段階的に
システムを成長

グローバル
連結経営の強化

日立
システムズの
強み

提案から導入、保守運用まで
ワンストップサービス

上流工程からの作り込みを
徹底する品質

導入後も運用上の課題を継続的に
改善するAMO^{*1}サービス

連結会計に留まらない、
総合力を生かしたトータルサポート

*1 アプリケーションマネジメントアウトソーシング



1,000社以上の子会社。 グループの7割以上が海外企業。 グローバル連結経営の強化を支援。

Company Profile

株式会社 日立製作所

設立年月日: 1920年2月1日(創業1910年)

所在地: 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号

連結従業員数: 333,150名(2015年3月末日現在)

代表者: 代表執行役 執行役社長兼COO 東原敏昭

URL: <http://www.hitachi.co.jp/>

株式会社 日立製作所(以下、日立製作所)を中核とする日立グループ。

そのグローバル連結経営の強化には、決算業務の効率化から制度連結、管理連結まで、グループ全体での各種業務をシームレスに統合する必要がありました。

そこで、精算処理エンジンにディーバ社連結会計システム「DivaSystem」を軸とした新連結決算システムを導入。

現行システムとの並行運用期間を経て、2015年度から本格的なIFRS(国際財務報告基準)統一運用を開始しました。

選定理由や稼働に至るまでの経緯、今後の展望について、お話を伺いました。



財務統括本部 財務マネジメント本部
経理部 連結計理グループ

田村 佳司氏



財務統括本部 財務マネジメント本部
経理部 連結計理グループ

桐原 和香氏



ITビジネスサービス本部 経営情報システム本部
経営情報システム部 財務システムグループ

小林 浩治氏

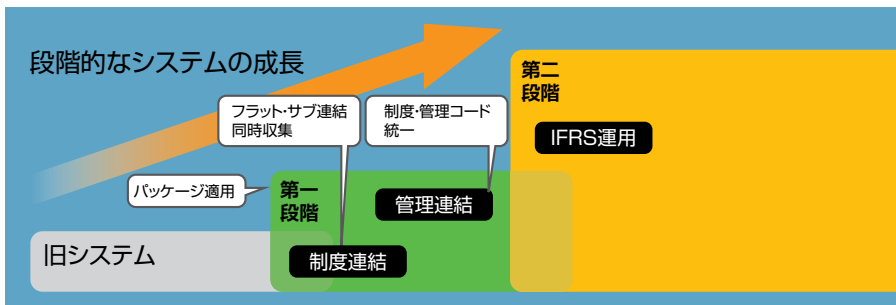
グローバル連結経営が促した、 連結決算システムの見直し

日立製作所は、1,000社を超える子会社を擁する国内最大規模の総合電機メーカー。グローバルでの競争力強化を図るために、提携や合併、M&Aを積極的に実施し、現在ではグループ会社の7割以上が海外企業である。大規模子会社同士の合併、子会社から日立製作所への事業統合、上場子会社と上場孫会社の合併など、広範かつ複雑なグループ内再編を進めてきた。

「決算書は世の中の信頼に依るものです。間違いは許されません。」と経理部 田村氏が語るように、企業としての信頼性を維持するために、グローバル連結経営の強化を課題とし改善に取り組んでいた。

経営情報システム部 小林氏は「旧連結決算システムは自社でスクラッチ開発したものであり、技術者を維持、確保するのが困難でした。そのため、決算日程短縮や内部統制対応など時代の要請に応えるために、多大なコストと工数が都度発生していたのです。」と導入の背景を振り返る。グループ全体でのITコストの低減、そして業務・保守効率の向上を目的に、連結決算システムの見直しを実施することになったのだ。

日立連結決算システムの変遷



選定を左右したのは、処理性能と保守・運用のノウハウ

より低価格で処理をスピーディーに、それでいて新会計基準にも対応するなど、必要な機能を満たすシステムを検討する中で、パッケージの導入が新システムの前提になっていった。

「旧システムでは、上場子会社を中核とした各グループが独自に連結数値を作成しており、グローバル連結経営としては非常に非効率な状態でした。我々IT部門はパッケージの導入による標準化・集中化が効率化への近道であることを幹部に説明し、パッケージ導入の検討、選定に入りました。検討にあたっては、処理性能、保守性、拡張性、機能性はもちろん、グループ社員の負担が軽

減されることを重視しました。」と小林氏は言う。評価の結果、連結会計業務やグループ経営管理に求められる機能を網羅したDivaSystemを選定。さらに、旧システムの課題であった柔軟性を求めたと小林氏は続ける。

「日立グループは100年の歴史において良い意味で独自性が存在している。しかし、その独自性は新システムを稼働するうえで大きな障壁にもなります。日立システムズは連結決算システムの保守・運用エンジニアを数多く抱え、システム運用のノウハウに長けています。新システム導入にはその柔軟性かつ迅速に応えられる対応力に期待しました。」スクラッチ開発したシステムをパッケージに移行するにあたっては、想定外のトラブル

ルが起こる可能性がある。そうしたトラブル対応を想定し、日立システムズとディーバ社を選定したのだ。

連結精算処理時間を 1/16に短縮、 カンパニー制の進化も促進

DivaSystemをベースに独自の新連結決算システムを構築する。その導入にあたり、どのような視点で取り組んだのか、小林氏に聞いた。

「DivaSystemがフレキシブル性に優れているとは言え、システムの構築とともに、まずシステム面・運用面の双方からどのような作業が必要なのか、その見極めに取りかかりました。」

複雑な事業再編に対応しながら、同時に信頼性の維持に必要な性能やリソースの分析を行ったり、再編前と再編後で決算値に不具合が発生しないよう影響範囲を事前に把握したりするなど、日立製作所は日立システムズ、ディーバ社と連携して課題解決に取り組んだ。

「新連結決算システムの構築には2つの段階がありました。第一段階では、決算の早期化とともに、ITコストや監査コストの削減を実現しました。」と田村氏は言う。

また小林氏は「新システムでは、旧システムと比較し決算精算処理時間を1/16まで短縮することに成功しました。また、入力作業の軽減や二重入力の排除により、グループ社員の負担軽減に貢献できました。」とその効果を語る。同時に、これまでグループに分散していた業務を本社に集約できたことでITコストの低減、内部統制リスクの軽減を可能にした。

「第二段階は、2015年度からのIFRSの本格運用です。2年間の並行運用を含めて徐々に移行してきました。」と経理部 桐原氏は言う。日立グループでは2015年3月期の有価証券報告書からIFRSへ移行をしている。桐原氏は「IFRSへの移行を支えたのは、制度連結、管理連結を統合し、一元的に処理できる業務基盤を実現できたDivaSystem

だと思います。」と言う。また、企業ごとの決算値をフィードバックできる利点は連結決算だけに留まらない。企業間での情報共有が促進され、カンパニー制の進化を実感できたそうだ。

最大の評価は、 共に解決するスタンス

すべてが計画通りに進んだように思えるが、実はその道のりは簡単なものではなかったとも小林氏は語る。

「スクラッチ開発のシステムをパッケージへ適用することの難しさに始まり、親会社と上場子会社を含めたグループ全体の業務標準化、他システムとのデータ連携、サブ連結、管理連結の導入、パッケージを仮想化するためのインフラ構築…。システムの変遷と共に解決しなければならない課題は常に存在しました。日立システムズと一緒に課題と向き合い、それらを一つずつ解決していくことで、段階的にシステムを成長させられたと実感しています。」

一方、田村氏はこのように日立システムズを評価する。

「新連結決算システムおよびIFRSの導入で慎重に時間をかけたのは、日立全子会社への展開です。海外現地子会社へ出向いて説



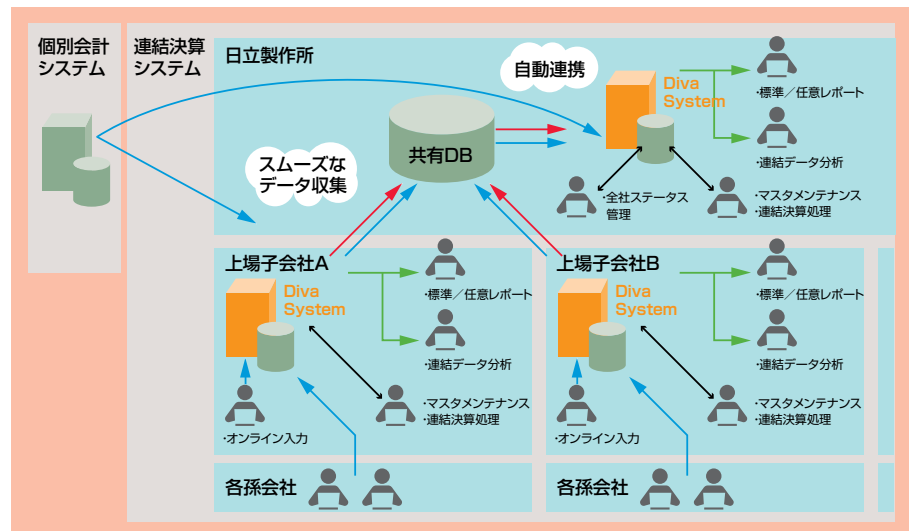
■海外拠点での説明会の様子

明会を開催したり、全社に向けた実機操作訓練などを実施したり…。IFRS導入にあたっては、子会社を含むすべての関係者に対してIFRSとは何なのか、なぜ適用が求められるのかといった基礎からの意識付けを図りました。説明会で使用する資料の準備等、一見、システムの構築とは関係がない課題に対しても、日立システムズは真摯に対応し、常に心強いパートナーでいてくれました。」

日立グループの大規模な連結決算システムの導入にあたり、日立システムズは導入から保守運用まで、一貫したサービスを提供してきた。そのきめ細やかなサポートを実感していただいたようだ。

連結決算における運用ノウハウを生かし、これからも企業規模に合わせた課題解決につながるサービスを提供していく。

■日立連結決算システムの概要



凡例: → 各社個別決算データ → 連結精算データ → サブ連結データ

背景

- ・スクラッチ開発のシステム拡張にかかる膨大なコスト
- ・連結精算処理にかかる多大な手間と時間
- ・内部統制の維持と業務・保守効率向上の両立

選定理由

- ・パッケージでありながら、フレキシブルな対応が可能
- ・連結精算処理時間の短縮への期待
- ・長年の連結決算システム運用のノウハウ

効果

- ・決算の早期化
- ・連結精算処理時間を1/16まで短縮
- ・業務標準化による内部統制のリスク軽減、コスト削減を実現

日立システムズが展開するトータル財務ソリューション

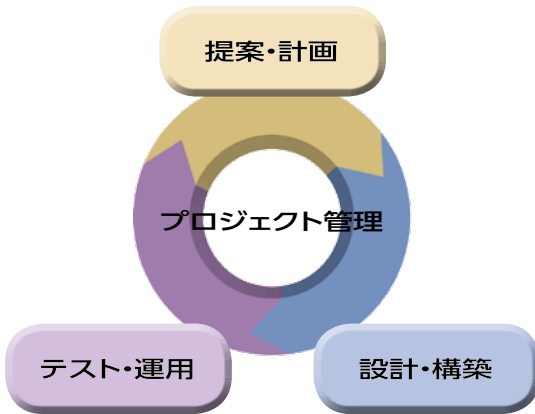
長年の連結決算運用サポート実績に基づくソリューション

- ・グループ会社1,000社近くの大規模な連結会計システムを導入・運用したノウハウ・ソリューションの提供
- ・日立グループのノウハウが結集されたDivaSystemの保守運用サポート力
- ・入出力帳票の豊富な開発実績と独自に確立した開発基準により高い品質を提供
- ・IFRS適用へ向けたシステム構築も対応可能

総合力を生かしたトータルサポート

- ・基幹システム+連結会計システムの組み合わせで日立グループの総合力を生かした提案
- ・連結会計システムに留まらないバリエーション豊富なソリューション
- ・企業規模に関わらず、さまざまな業務要件をカバー
- ・全国30超の営業拠点、メンバーが支える地域密着型の営業窓口機能

システムを総合的にサポート



ワンストップサービス提供

既存システムとの連携から導入、構築支援、今後の保守、展開までワンストップで対応



*1 データを蓄積・分析・加工し、活用するためのツール

累計800社以上^{*2}の導入実績を誇る 国内シェアNO.1^{*3}の連結経営システム



連結会計の、その「先」へ

決算期の統一や早期化から、制度・管理連結の融合、予算管理の効率化など幅広い業務領域に対応。個別会計システムやERPなど既存システムとの連携にも優れ、会計分野だけでなく予算や人事など非会計分野データの収集、管理、分析も可能であり、経営情報の可視化と意思決定の迅速化を支援します。

やりたい業務へ「直感的」にアクセス

作業のプロセスを常に「見える化」

「IFRS」導入をスムーズに

いろいろな部門でかんたん利用



視覚的にわかりやすいデザインで、やりたい業務をメニューに一覧表示

*2 2015年3月末時点

*3 出所:富士キメラ総研 ソフトウェアビジネス新市場 2015

株式会社 日立システムズ

本社: 〒141-8672 東京都品川区大崎1-2-1

お問い合わせは

商品のお問い合わせはこちらまで
www.hitachi-systems.com

0120-346-401

受付時間 9:00～17:00 (土、日、祝日は除く)

※DivaSystemは株式会社ディーバの製品です。 ※SAP R/3はSAP SE社の登録商標です。 ※SuperStreamはスーパーストリーム株式会社の登録商標です。

※C-Taxconductorは株式会社日立製作所の登録商標です。 ※HULFT-DataMagicは株式会社セゾン情報システムズの登録商標です。

※DataSpider Servistaは株式会社アプレッソの登録商標です。 ※Dr.Sum EA, MotionBoardはウィングアーク1st社の登録商標です。

※QlikViewはQlik Tech International ABの登録商標です。 ※記載されている内容、仕様については、予告無く変更する場合があります。

※本製品を輸出する場合には、外国為替および外国貿易法ならびに、米国の輸出管理関連法規などの規制を御確認の上、必要な手続きをおとりください。

なお、ご不明な場合は、当社営業にお問い合わせください。

HE-032-1.1 2015.08

Printed In Japan